

大学発マイクロ波論文特集の発行にあたって



大学発マイクロ波論文特集編集委員会

委員長 河合 正

大学発マイクロ波論文は2003年に始まったマイクロ波研究専門委員会主催の学生研究発表会（1種研究会）での発表内容をブラッシュアップして論文とすることを当初の目的として始まった企画である。今年は2004年12月発刊の第1回（当初の名称はマイクロ波論文（大学発））から数えて15回目となり、和文論文誌の恒例企画となっている。本企画は、大学、高専等の研究機関を中心として取り組まれたマイクロ波技術を論文に取りまとめる機会として活用されている。この間、国立大学、高専の独法化があり、教育研究の環境が大きく変化していく中、産学官の連携も広がりを見せている。一方、マイクロ波技術はワイヤレス情報通信分野に限らず、工業、医療、化学、エネルギー応用、流通、セキュリティなど幅広い分野で利用され、今後もその技術は進歩し続けるものと考えられる。また、2020年の次世代移動通信システム（5G）の実用化を目前として、更に高速、大容量通信が必要とされる中、マイクロ波技術は更なる進化が求められる状況にあり、産官学が連携してこれに応えることがますます重要になると考えられる。そのような社会情勢を背景に、本特集には受動/能動回路技術、シミュレーション技術、計測技術、システム応用など幅広い分野から

17編（ショートノート3編、論文14編）の投稿があった。投稿論文に関して、各分野の専門家に慎重に査読頂いた結果、採択率44%とやや厳しい結果となり、7編（ショートノート1編、論文6編）の掲載となった。また、招待論文として、佐賀大学の豊田一彦教授に執筆頂いた指向性可変機構を有するアンテナ技術は、通信機器の高性能化・高機能化に寄与するものと考えられる。

最後に、本特集の発刊にあたり、大変お忙しい中、編集作業に当たって頂いた編集委員、また、投稿論文を慎重かつ厳格に査読頂いた査読委員の皆様にお礼申し上げます。更に、非常にタイトなスケジュールの中、発刊に向けての編集委員会作業に協力頂いた事務局に感謝する。

本特集が今後の更なるマイクロ波関連技術の発展の一助となれば幸いです。

平成30年11月12日web公開

河合 正（正員：シニア会員） 平2姫路工大・工・電子卒。平4同大大学院修士課程了。平7同博士課程了。同年同大・工・電子助手。平19兵庫県立大学工学研究科准教授。現在に至る。その間、平面導波路及び導波管型マイクロ波・ミリ波受動回路素子の研究に従事。工博。電気学会、IEEE各会員。

大学発マイクロ波論文特集編集委員会

| | |
|-----|------------------------|
| 委員長 | 河合 正 |
| 幹事 | 亀井 利久・石橋 秀則 |
| 委員 | 池内 裕章・石川 亮・大石 敏之・岡部 寛 |
| | 木村 重一・佐藤 潤二・須賀 良介・関 智弘 |
| | 陳 春平・堤 恒次・平野 拓一・松永 真由美 |